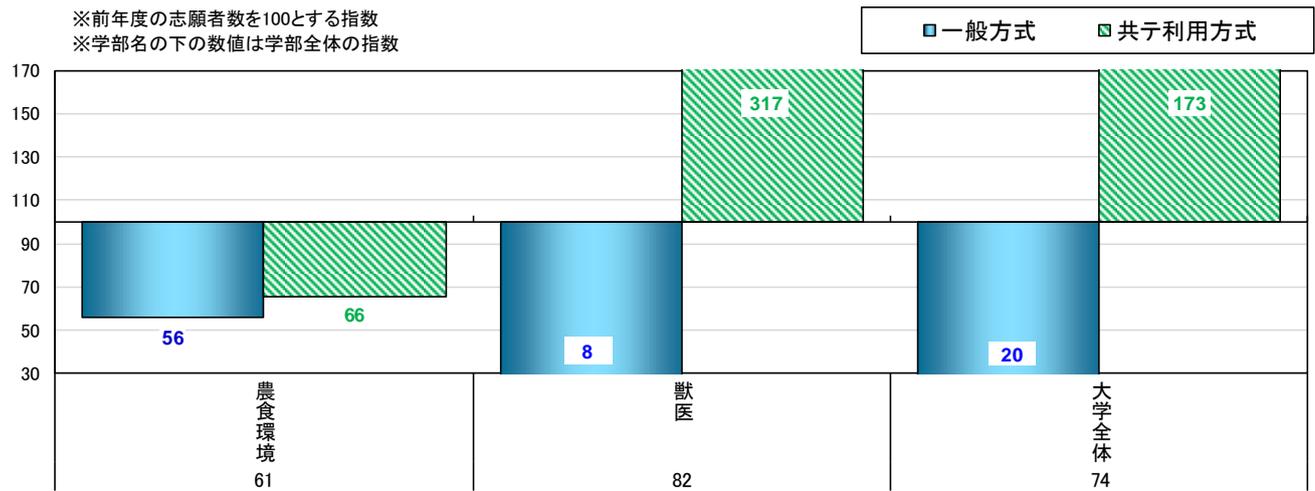


2021 年度入試状況分析【私立大】

酪農学園大：大学全体では4年連続減少、獣医(獣医)は共テ利用・併用を拡大 一般：-1,179人 共テ：+590人



入試変更点	選抜方法：獣医(獣医学類)・・・〈一般・第1期〉、〈一般・第2期〉廃止 〈共テ・前期5教科〉新規実施 ※3教科方式と併願可能 〈共テ併用・第1期(A日程)〉、〈共テ併用・第2期〉新規実施 入試科目：獣医(獣医保健看護学類)・・・〈一般〉理+外→(国 or 外)+(数 or 理) 〈共テ〉外+(理 or 理基2)→(国 or 外)+(数 or (理 or 理基2)) 募集人員：獣医(獣医学類)・・・共テ・前期>5人→10人 獣医(獣医保健看護学類)・・・一般・第1期>24人→20人、共テ・前期>7人→8人
-------	--

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数、なお共通テスト利用方式はセンター試験利用方式との比較

大学全体では、コロナ禍の中で遠距離大学への進学を敬遠する傾向や系統への低い人気に影響して、589人(74)の減少で4年連続減少。これに加えて、獣医(獣医)(79)は一般方式を共通テスト併用方式に変更した影響が大きく、募集人員(前年度募集人員対比指数124)の増加があったものの、大幅減少となった。方式別では、一般方式(20)は、獣医(獣医)の廃止で激減だが、これを除いても(64)の大幅減少。一方で、共通テスト利用方式(173)は、獣医(獣医)の一般方式の共通テスト併用方式への変更、共通テスト利用方式における5教科型の新規実施、併用方式の新規実施、獣医(獣医保健看護)で選択科目増加などの影響で激増。ただし、既存の募集単位合計では(72)の大幅減少。

<一般方式>
 ○農食環境(56)は、大幅減少。学類・コース別では、全ての学類・コースで減少。(食と健康)(31)が前年度激増の反動で激減、(環境共生)(51)、(循環農学)(69)はいずれも大幅減少で3年連続減少、(食と健康/管理栄養士)(89)は5年連続減少。
 ○獣医(8)は、(獣医)が一般方式を共通テスト併用方式に変更したことにより激減だが、前年度と募集方式の区分に大きな変更のない(獣医保健看護)(98)のみでは前年度並。

<共通テスト利用方式>
 ○農食環境(66)は、大幅減少。学類・コース別では、全ての学類・コースで大幅減少。特に、(循環農学)(62)、(食と健康)(62)、(環境共生)(65)が減少率30%以上で、(食と健康/管理栄養士)(81)も前年度増加の反動で大幅減少。
 ○獣医(317)は、共通テスト利用方式で5教科型の新規実施や一般方式の共通テスト併用方式への変更で3倍の激増だが、既存の募集単位のみでは(84)で大幅減少。学類別では、(獣医)(381)は4倍近い激増だが、既存の募集単位のみでは(77)で大幅減少。前年度と募集方式の区分に大きな変更のない(獣医保健看護)(107)はやや増加。